

第13期Bコース（アメリカ合衆国・アリゾナ州）出発レポート

□ 留学に向けて出発

令和7年7月19日（土）、第13期Bコース研修生がアメリカ・アリゾナ州での留学に出発しました。成田空港では、「次世代リーダー育成道場の一員であることを心に留めながら、様々なことに果敢に挑戦してください」と、今後の留学生活に向けた励ましのメッセージが東京都教職員研修センターの職員から研修生たちに送られました。研修生たちは多くの保護者の温かい見送りを受け、期待を胸に経由地であるサンフランシスコへ出発しました。サンフランシスコ国際空港では、予定していたフェニックス・スカイハーバー国際空港行きの便が急遽運休になった影響で宿舎への到着が遅れましたが、研修生は不測の事態であるにもかかわらず、慌てることなく落ち着いて対応することができていました。

フェニックス・スカイハーバー国際空港では、現地で研修生をサポートしてくれる留学生受入機関の方々に温かく迎えていただきました。荷物を受け取り、バスで宿泊兼オリエンテーション会場となるホテルに移動しました。到着時刻が遅れたため、睡眠時間を確保し体調を整える目的で、翌日は一部プログラムを短縮し調整しました。



<成田空港 出発式の様子>

□ 到着オリエンテーション

宿舎に到着した翌日の午後から、到着オリエンテーションが始まりました。このオリエンテーションは、留学先での生活にスムーズに適応できるよう、2日間にわたって行われます。現地の留学生受入機関の方々による様々なアクティビティを通して、コミュニケーションの大切さ、現地校での生活、ホームステイ先での過ごし方、留学中のルール、緊急時の連絡方法などについて、詳しい説明を受けました。

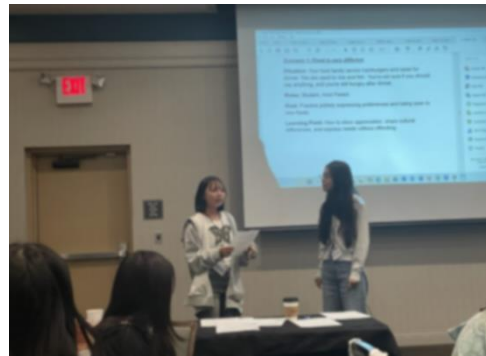
《具体的な場면을想定したロールプレイ》

参加者はグループごとに「日本とアメリカ合衆国の文化の違い」に関するテーマを選び、意見交換を行った後、ホームステイ先やホストスクールでの具体的な場면을想定してロールプレイを実施しました。

例えば、あるグループは「ホストマザーから『日本ではなぜ靴を脱いで家に上がるのか？』と尋ねられた場面」を設定しました。その中で、「日本には昔から畳文化があり、靴を脱ぐ習慣がある」とい

ったように、文化的背景を根拠として相手に分かりやすく説明することで、聞き手の納得を得られることを実感していました。

意見交換は、現地留学生受入機関の方のファシリテーションの下、積極的に話し合いに参加し、堂々と英語で発言する姿からは、次世代のリーダーとしての資質が感じられました。



<ロールプレイ前に意見交換を行う様子> <ホストペアレント役と研修生役に分かれ、発表する様子>

《ビジョンボードの作成》

最終日のオリエンテーションでは、約1年間の研修における目標等を視覚化したビジョンボードを作成しました。作成後、研修生たちは1年後の自分を想像し、ビジョンボードを見せながら、全員英語で「どのような自分になりたいか」について発表を行いました。研修生は、「何事にも積極的に新しいことに挑戦する」、「ホストファミリーや支えてくださる方への感謝の気持ちを大切にして学習に取り組みたい」、「次世代のリーダーとして、多様性を尊重しつつ問題解決していきたい」など、将来の理想の自分に向けた抱負を述べていました。2日間のオリエンテーション中、研修生は、積極的にメモを取ったり話し合いをしたりするなど、これから始まる留学生活に向けて、緊張感をもって臨むことができました。



<研修生がビジョンボードを作成している様子>

<英語で発表している様子>



<オリエンテーション会場前での集合写真>

□ ホストファミリーの方々との対面

7月21日（月）の午後、研修生たちの宿舎にホストファミリーの皆さんが迎えに来てくださいました。「もうすぐホストファミリーと会えるんですよね」と、研修生たちはその瞬間を心待ちにしている様子で、とても印象的でした。それぞれのホストファミリーに温かく迎えられた研修生たちは、安心した表情で宿舎を後にしました。

これから約1年間、それぞれの家庭での留學生活が始まります。皆さんが大きく成長して、また元気な姿で再会できる日を楽しみにしています。



<ホストファミリーの方々との出会い>